

B1-1 太陽光発電施設

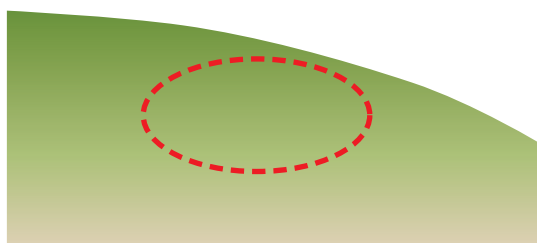
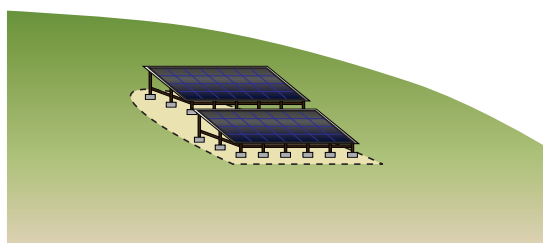
山地・里山ゾーンの基準

基準

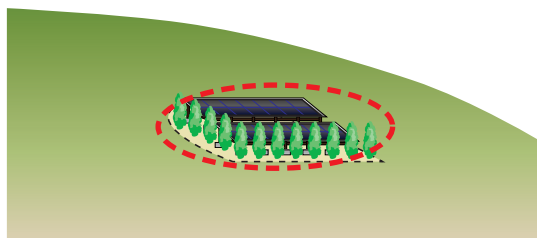
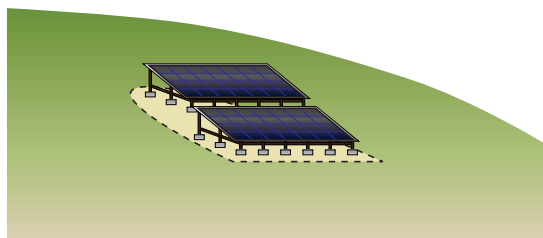
- ・誇れる視点場から望見できる場所や山の斜面への設置は避けること。やむを得ず設置する場合は、人工物（土台や支柱を含む）の存在感や反射光を軽減させる工夫をすること。

■具体的な配慮の例■

○誇れる視点場から望見できる場所や山の斜面への設置は避ける。



○やむを得ず設置する場合は、パネルの反射光などにより誇れる視点場からの眺望景観を阻害しないよう、施設の規模や地形等に応じ、太陽電池モジュールを分散して配置したり、植栽するなど、人工物（土台や支柱を含む）の存在感を軽減させる工夫をする。



C1-1 規模・配置

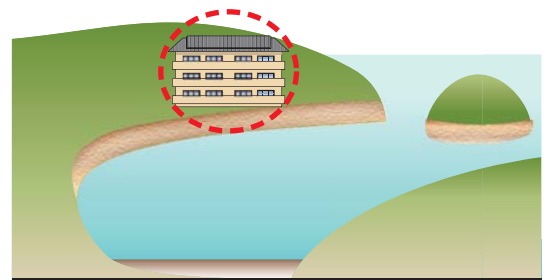
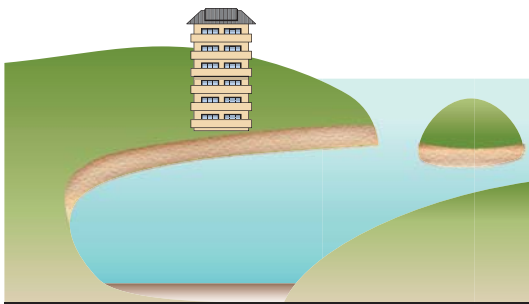
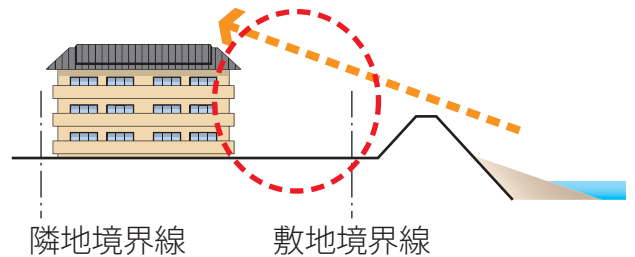
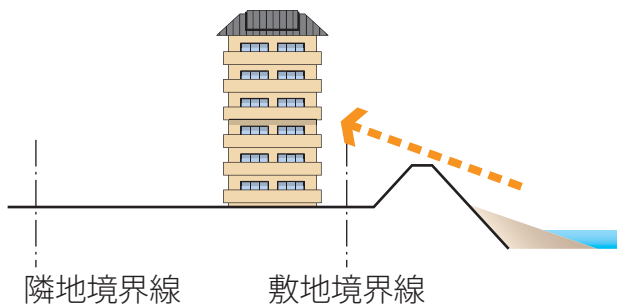
里海・熊野灘沿岸ゾーンの基準

基準

- ・海岸付近においては、海側の敷地境界線から建築物等をできる限り後退するなど、規模・配置を工夫し、行為地周辺の海岸からの圧迫感の軽減や、周辺の橋や対岸などからの開放感ある眺望の確保に配慮すること。

■具体的な配慮の例■

- 海岸付近の行為地においては、できる限り海側から後退させたり、低層に抑えることで、建築物等が突出せず、行為地周辺の海岸、周辺の橋、湾の対岸などから開放感ある眺望が確保できるよう配慮する。



C1-2 規模・配置

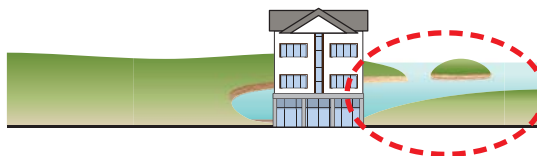
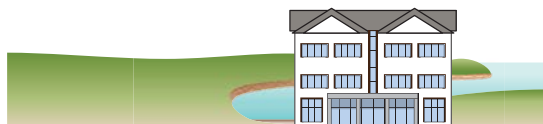
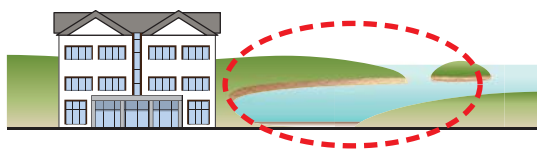
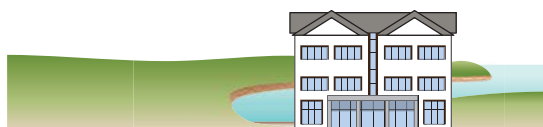
里海・熊野灘沿岸ゾーンの基準

基準

- ・行為地周辺の道路や公園、誇れる視点場等の公共の場から海が見通せる場合は、規模・配置を工夫し、海への眺望が確保できるよう配慮すること。

■具体的な配慮の例■

- 行為地周辺から海が見通せる場合には、規模・配置や建物の向きを工夫することで、海への眺望を阻害しないよう配慮する。



C2-1 形態意匠

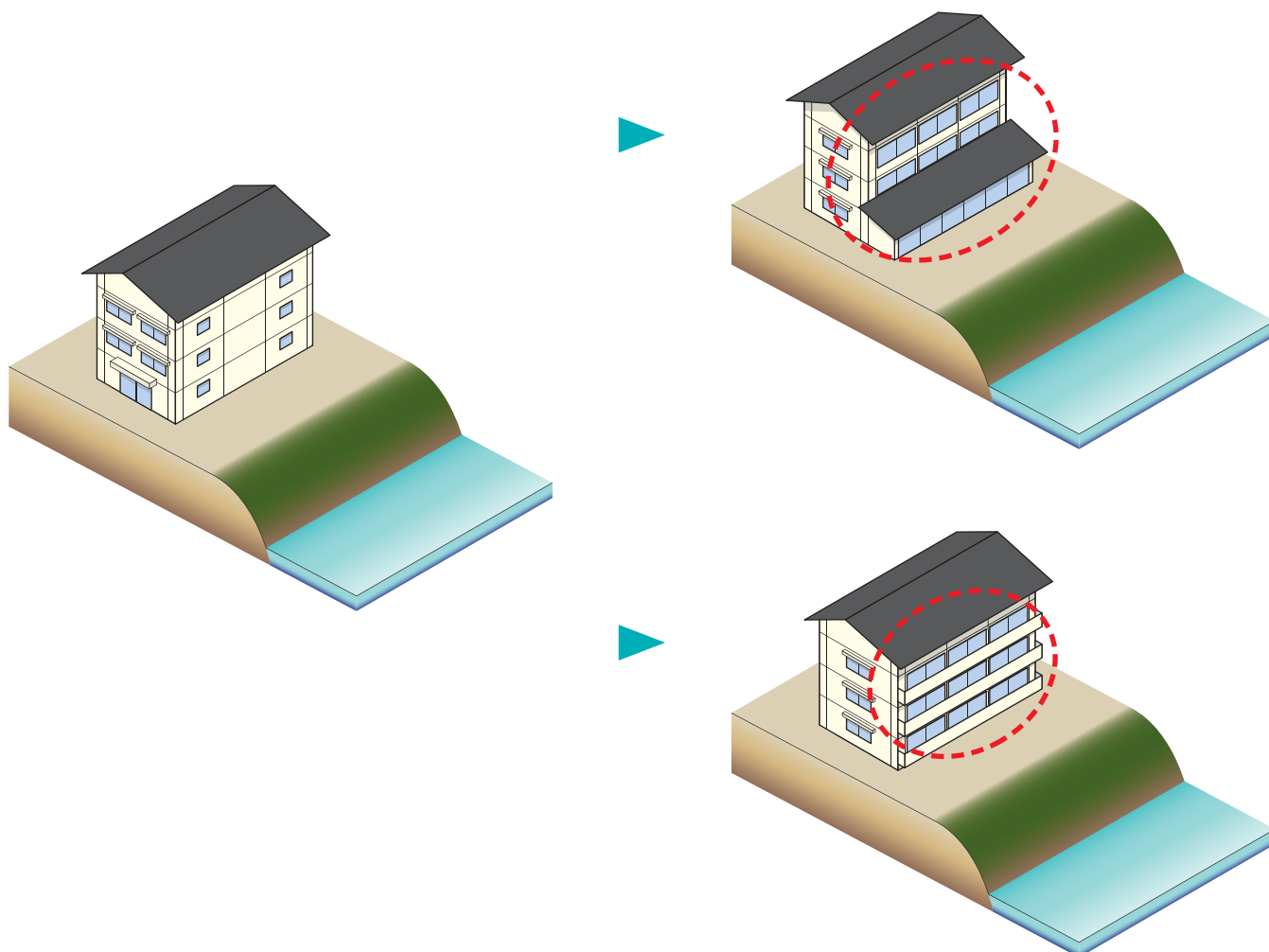
里海・熊野灘沿岸ゾーンの基準

基準

- ・海岸付近においては、壁面等の形態意匠を工夫し、開放感と親水性に富んだ空間の創出に配慮すること。

■具体的な配慮の例■

○海岸付近の建築物等は、海側の壁面を単調なものせず、開口部を設けるなど、海側への開放感や親水性の確保に配慮する。



C3-1 敷地の緑化

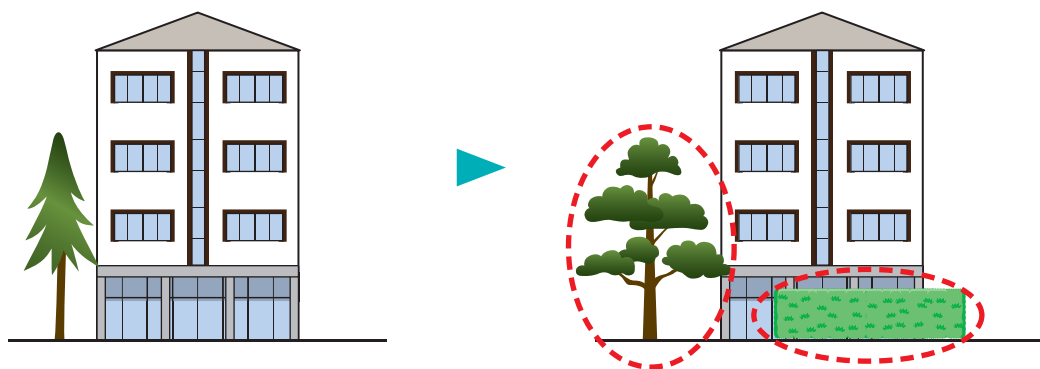
里海・熊野灘沿岸ゾーンの基準

基準

・海辺の雰囲気醸し出す樹種の植栽に努めること。

■具体的な配慮の例■

○海岸付近の行為地においては、地域に自生し、海辺の雰囲気醸し出す松などの樹種により緑化し、周辺の景観との調和やうるおいの創出に配慮する。



C4-1 太陽光発電施設

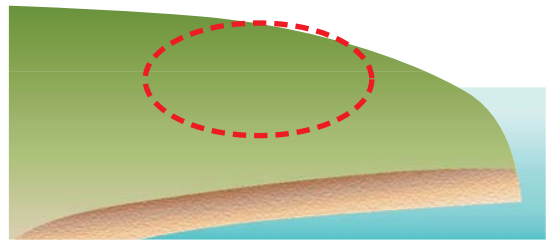
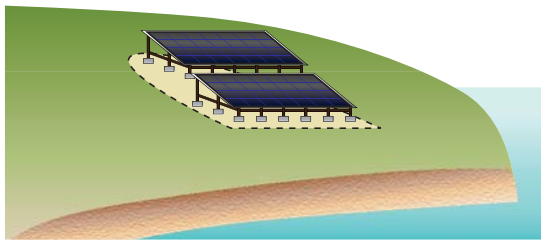
里海・熊野灘沿岸ゾーンの基準

基準

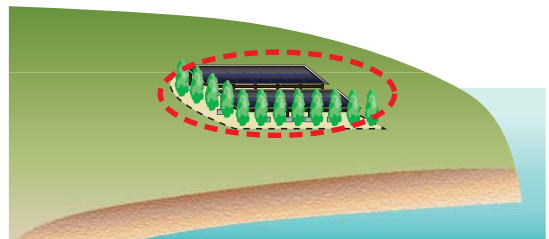
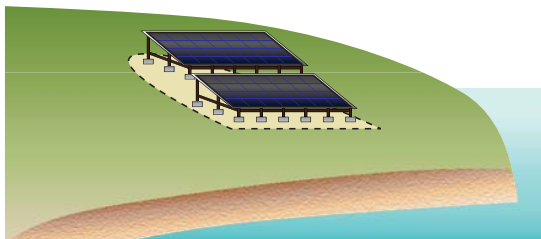
- ・誇れる視点場から望見できる場所や山の斜面への設置は避けること。やむを得ず設置する場合は、人工物（土台や支柱を含む）の存在感や反射光を軽減させる工夫をすること。

■具体的な配慮の例■

○誇れる視点場から望見できる場所や山の斜面への設置は避ける。



○やむを得ず設置する場合は、パネルの反射光などにより誇れる視点場からの眺望景観を阻害しないよう、施設の規模や地形等に応じ、太陽電池モジュールを分散して配置したり、植栽するなど、人工物（土台や支柱を含む）の存在感を軽減させる工夫をする。



D1-1 壁面

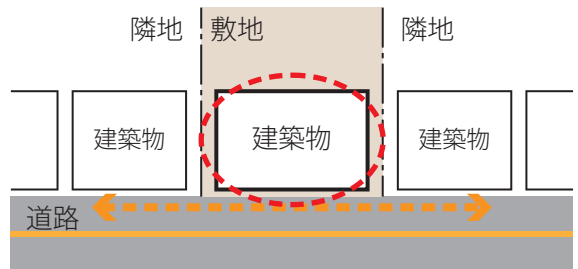
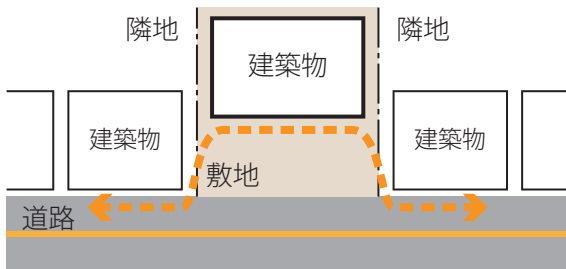
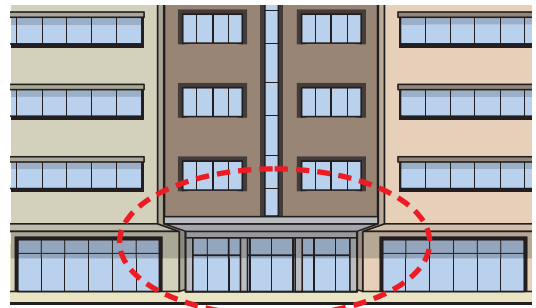
市街地ゾーンの基準

基準

- ・街路景観の整っている地域においては、できる限り壁面線を統一し、隣地や周辺との連続性に配慮するとともに、低層部分は壁面をセットバックするなど、ゆとりある空間の創出に配慮すること。

■具体的な配慮の例■

- 行為地の前面道路の街路景観が整っている場合、周辺の建築物と壁面の位置を揃え、まちなみの連続性の確保に配慮するとともに、低層部の壁面のセットバックなどにより、歩行空間を確保し、圧迫感を軽減するよう配慮する。



D2-1 外壁

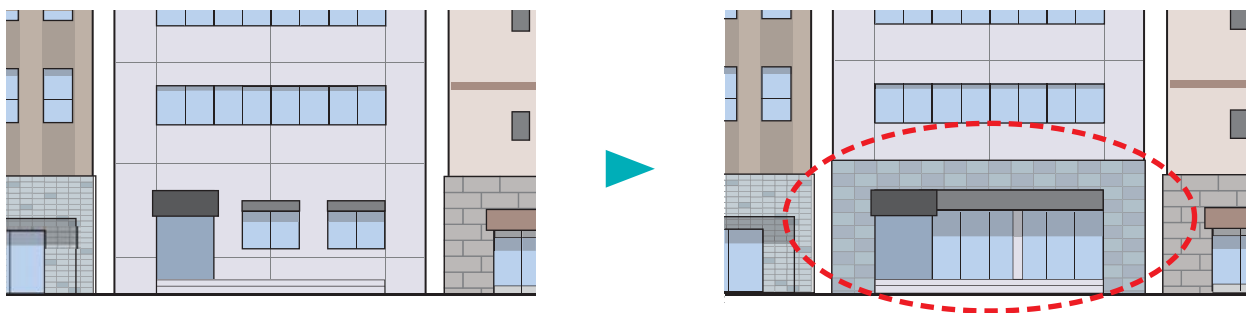
市街地ゾーンの基準

基準

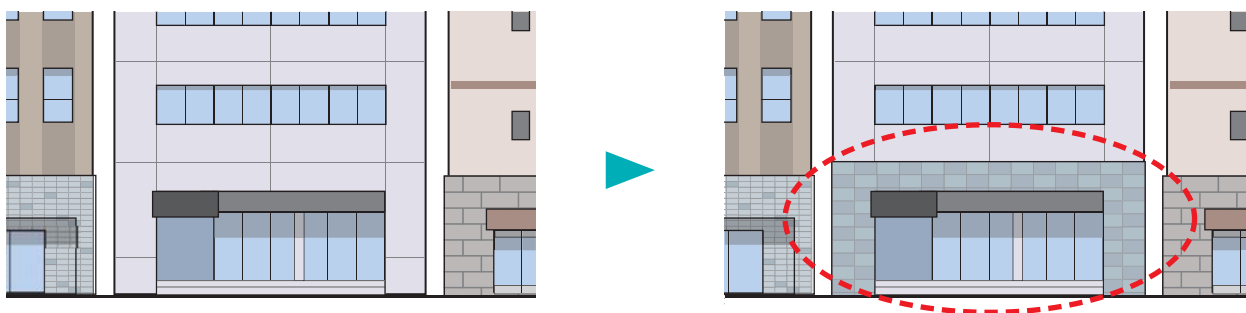
- ・商業・業務地においては、低層階の壁面の素材や形態意匠を工夫し、歩行者等に対するゆとりと開放感の確保や、にぎわいのあるまちなみの演出に配慮すること。

■具体的な配慮の例■

- 商業業務施設の低層部は、ショーウィンドーを設けるなど、開口部を広くすることで、歩行者等へのゆとりと開放感の確保や、にぎわいの演出に配慮する。



- 商業業務地の建築物の低層部には、時間の経過とともに趣が出る素材を効果的に使用するなど、誇りと風格のある市街地景観を創出するよう配慮する。



D3-1 敷地の緑化

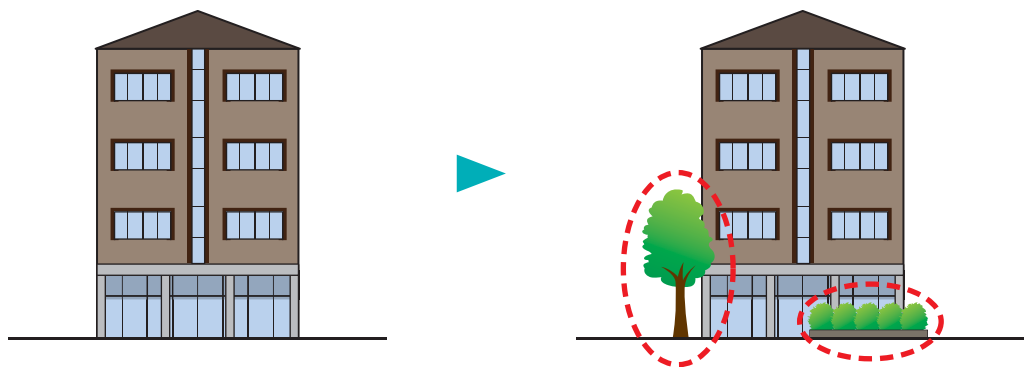
市街地ゾーンの基準

基準

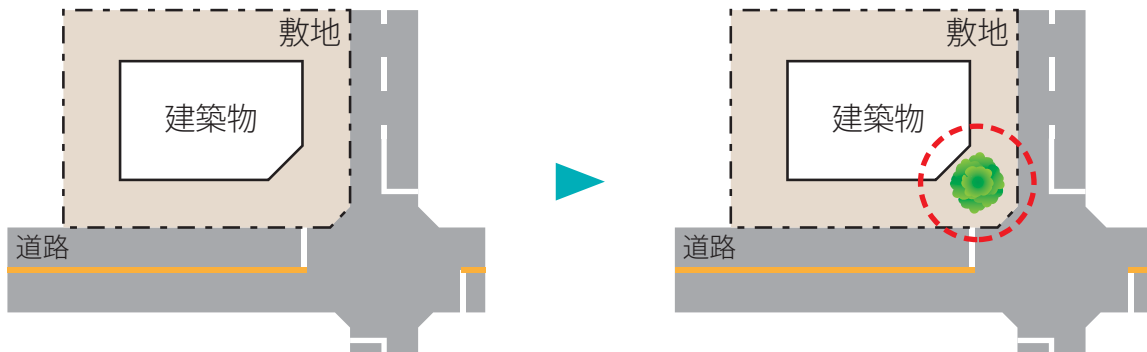
- ・多くの部分が緑化できない場合は、シンボルツリー等の植栽により、通りに彩りを添えるよう配慮すること。

■具体的な配慮の例■

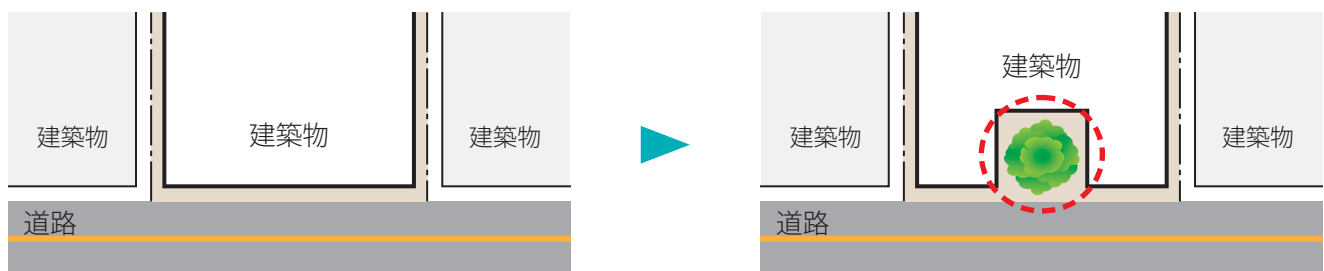
- 敷地の都合などにより、多くの部分を緑化することが難しい場合には、シンボルツリーの植栽やプランター等の設置などによる緑化により、通りに彩りを添えるよう配慮する。



- 行為地が角地にある場合は、コーナー部分にシンボルツリーを植栽するなど、効果的に特徴ある市街地景観を創出するよう配慮する。



- 建築物の壁面の位置を周辺の建築物と揃える場合は、部分的に壁面を後退させたスペースにシンボルツリーを植栽するなど、壁面線の連続性の確保と彩りの創出が両立できるよう配慮する。



E1-1 壁面

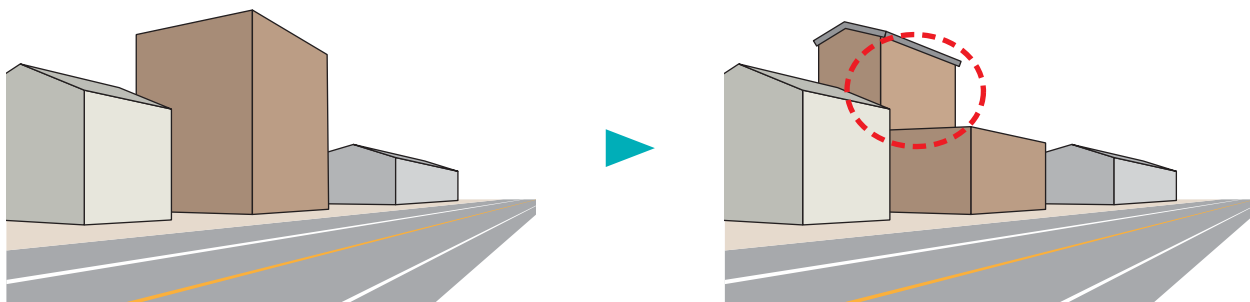
沿道ゾーン(内陸型)の基準

基準

- ・建物が連担している地域においては、周辺の建築物の高さを超える高層部の壁面をできる限り後退させ、圧迫感の軽減に配慮すること。

■具体的な配慮の例■

- 幹線道路沿いで建築物が連担している地域において、周辺の建築物よりも高くなる場合、周辺の建築物の高さを超える部分の壁面はできる限り後退させることにより、圧迫感の軽減や、連続性のある沿道景観の形成に配慮する。



E2-1 敷地の緑化

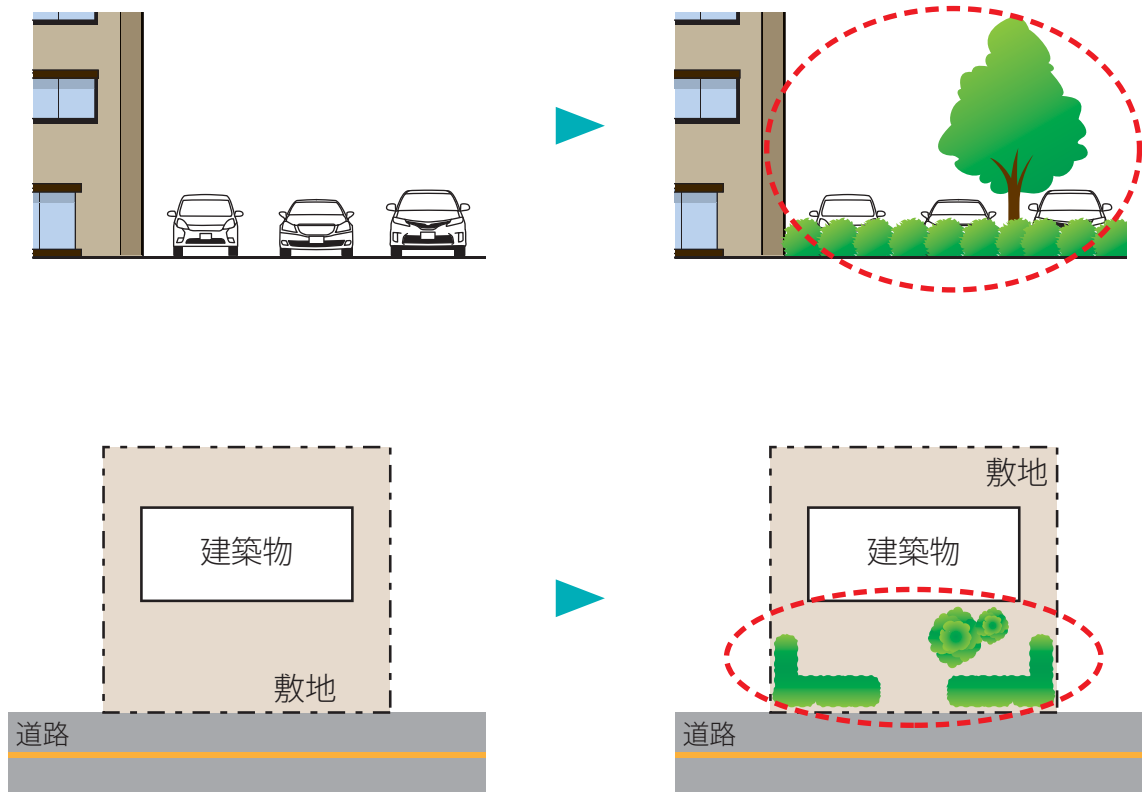
沿道ゾーン(内陸型)の基準

基準

・接道部や角地、駐車場等は積極的に緑化すること。

■具体的な配慮の例■

○幹線道路に面する部分の接道部や駐車場等を積極的に緑化し、うるおいのある沿道景観が形成されるよう配慮する。



E3-1 太陽光発電施設

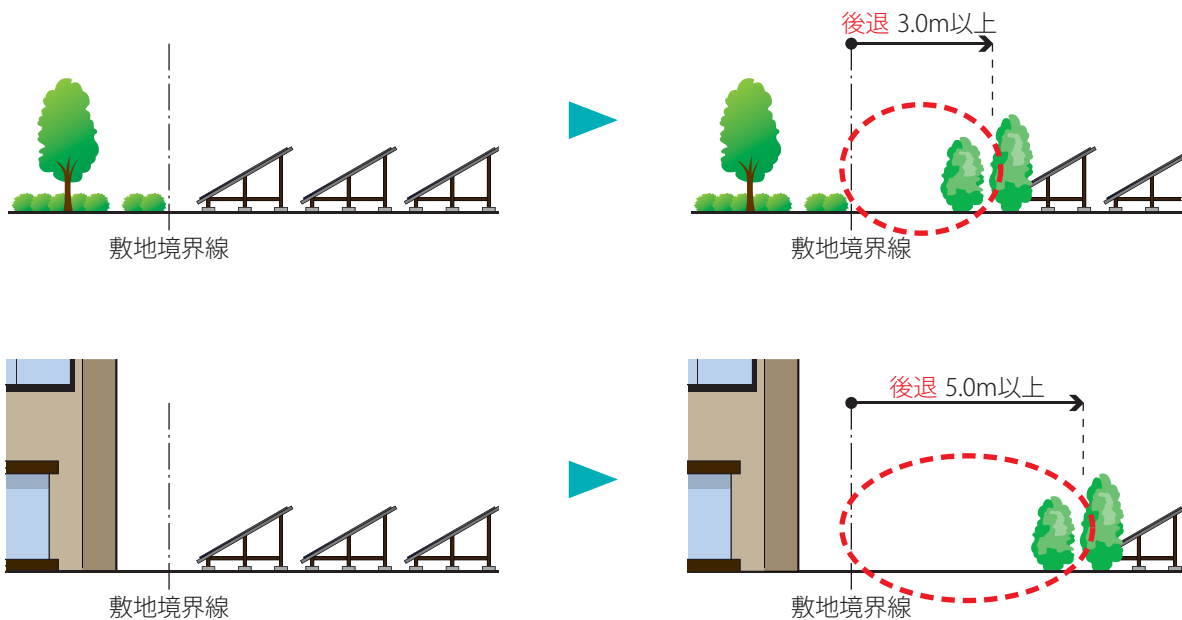
沿道ゾーン(内陸型)の基準

基準

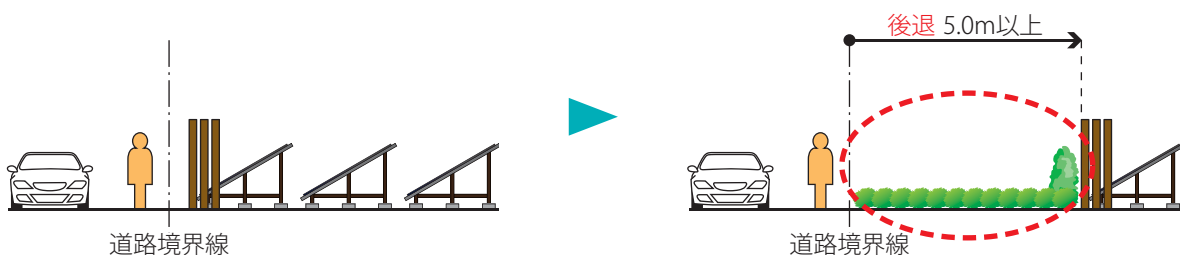
- 太陽光発電施設(柵塀等含む)は、敷地境界からできる限り後退し、圧迫感の軽減に配慮すること。

■具体的な配慮の例■

- 太陽光発電施設は、敷地境界からできる限り後退し、必要に応じ植栽などにより修景する。
なお、後退距離の目安は、隣地との境界から3.0m以上とする。ただし、隣接して建築物がある場合は、その土地の境界から5.0m以上とする。



- 柵塀等を設置する場合は、道路(農道、林道、自転車道等を含む)の沿道に直接面して設置せず、圧迫感回避のため、緩衝帯などによって一定の後退距離を確保する。
なお、後退距離の目安は、道路境界線から5.0m以上とする。



F1-1 規模・配置

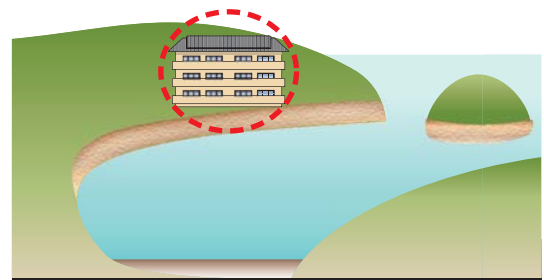
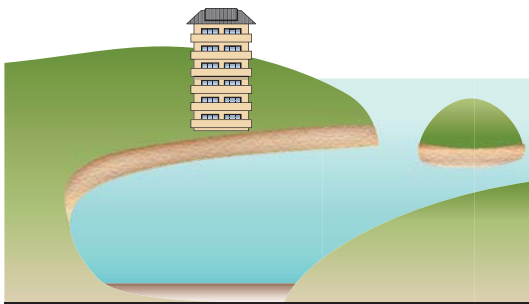
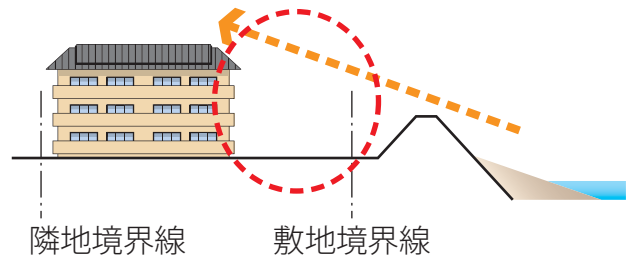
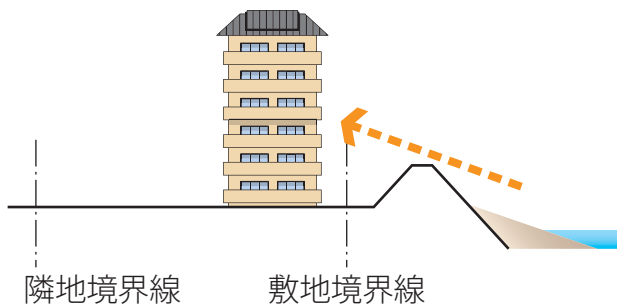
沿道ゾーン(沿岸型)の基準

基準

- ・海岸付近においては、海側の敷地境界線から建築物等をできる限り後退するなど、規模・配置を工夫し、行為地周辺の海岸からの圧迫感の軽減や、周辺の橋や対岸などからの開放感ある眺望の確保に配慮すること。

■具体的な配慮の例■

- 海岸付近の行為地においては、できる限り海側から後退させたり、低層に抑えることで、建築物等が突出せず、行為地周辺の海岸、周辺の橋、湾の対岸などから開放感ある眺望が確保できるよう配慮する。



F1-2 規模・配置

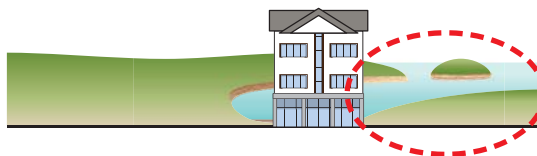
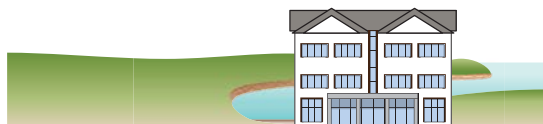
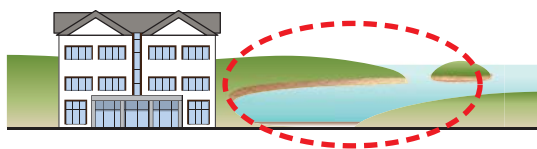
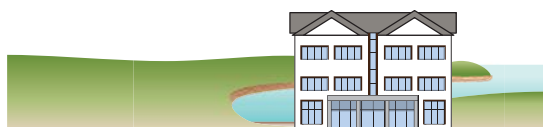
沿道ゾーン(沿岸型)の基準

基準

- ・行為地周辺の道路や公園、誇れる視点場等の公共の場から海が見通せる場合は、規模・配置を工夫し、海への眺望が確保できるよう配慮すること。

■具体的な配慮の例■

- 行為地周辺から海が見通せる場合には、規模・配置や建物の向きを工夫することで、海への眺望を阻害しないよう配慮する。



F2-1 壁面

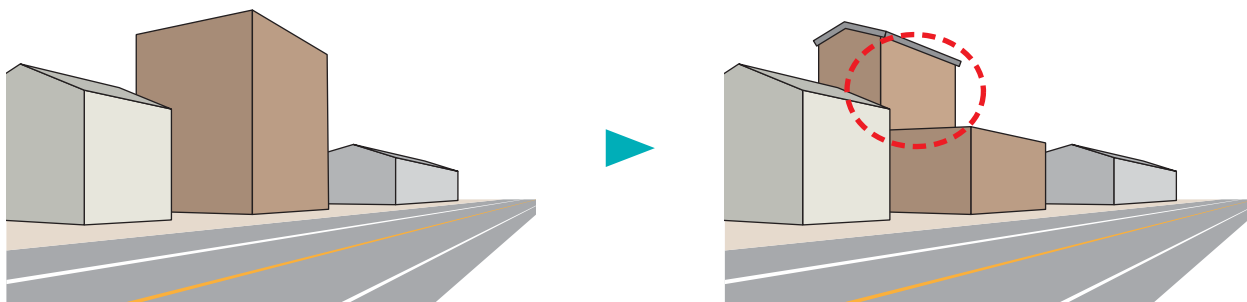
沿道ゾーン(沿岸型)の基準

基準

- ・建物が連担している地域においては、周辺の建築物の高さを超える高層部の壁面をできる限り後退させ、圧迫感の軽減に配慮すること。

■具体的な配慮の例■

- 幹線道路沿いで建建築物が連担している地域において、周辺の建築物よりも高くなる場合、周辺の建築物の高さを超える部分の壁面はできる限り後退させることにより、圧迫感の軽減や、連続性のある沿道景観の形成に配慮する。



F3-1 形態意匠

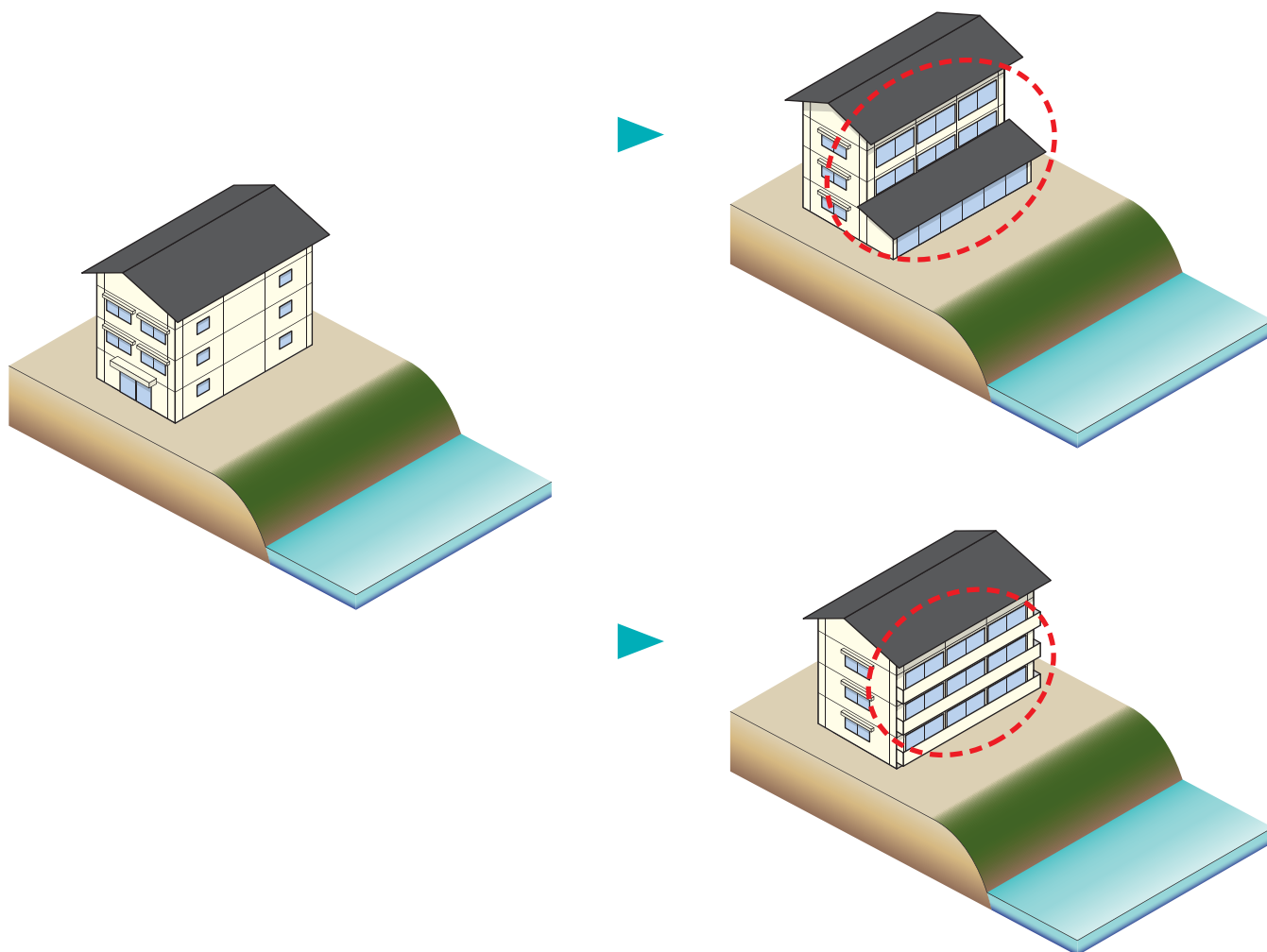
沿道ゾーン(沿岸型)の基準

基準

- ・海岸付近においては、壁面等の形態意匠を工夫し、開放感と親水性に富んだ空間の創出に配慮すること。

■具体的な配慮の例■

○海岸付近の建築物等は、海側の壁面を単調なものせず、開口部を設けるなど、海側への開放感や親水性の確保に配慮する。



F4-1 敷地の緑化

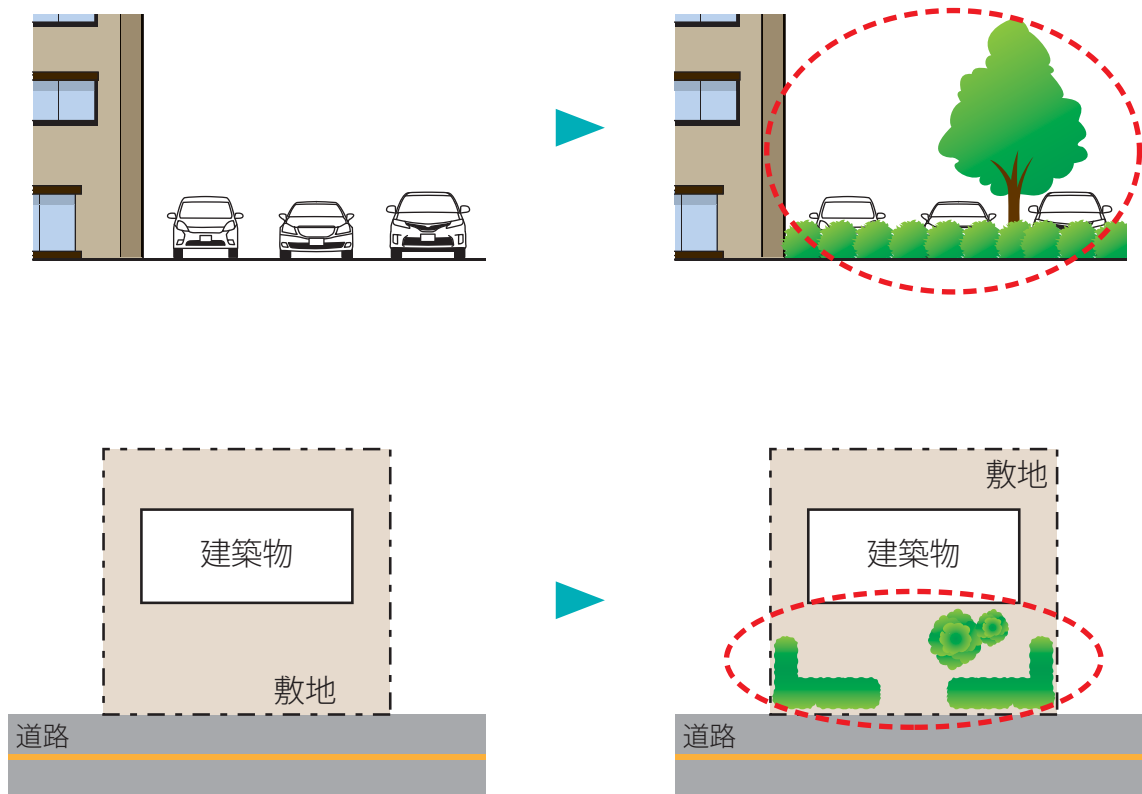
沿道ゾーン(沿岸型)の基準

基準

・接道部や角地、駐車場等は積極的に緑化すること。

■具体的な配慮の例■

○幹線道路に面する部分の接道部や駐車場等を積極的に緑化し、うるおいのある沿道景観が形成されるよう配慮する。



F4-2 敷地の緑化

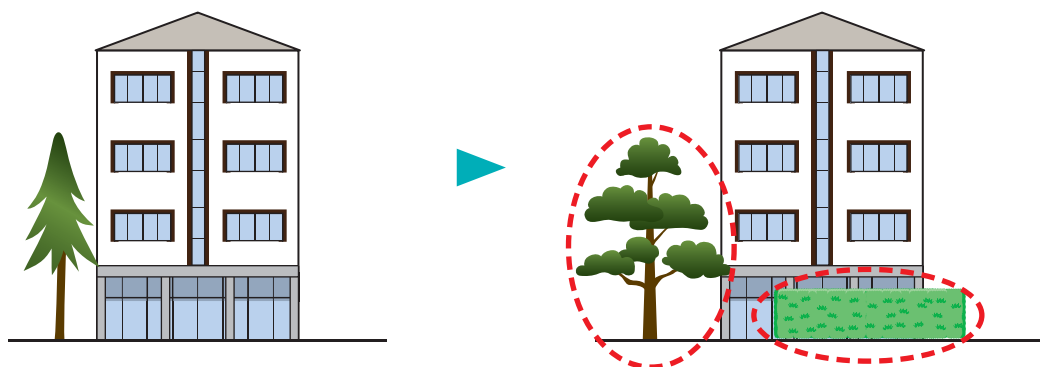
沿道ゾーン(沿岸型)の基準

基準

・海辺の雰囲気醸し出す樹種の植栽に努めること。

■具体的な配慮の例■

○海岸付近の行為地においては、地域に自生し、海辺の雰囲気を醸し出す松などの樹種により緑化し、周辺の景観との調和やうるおいの創出に配慮する。



F5-1 太陽光発電施設

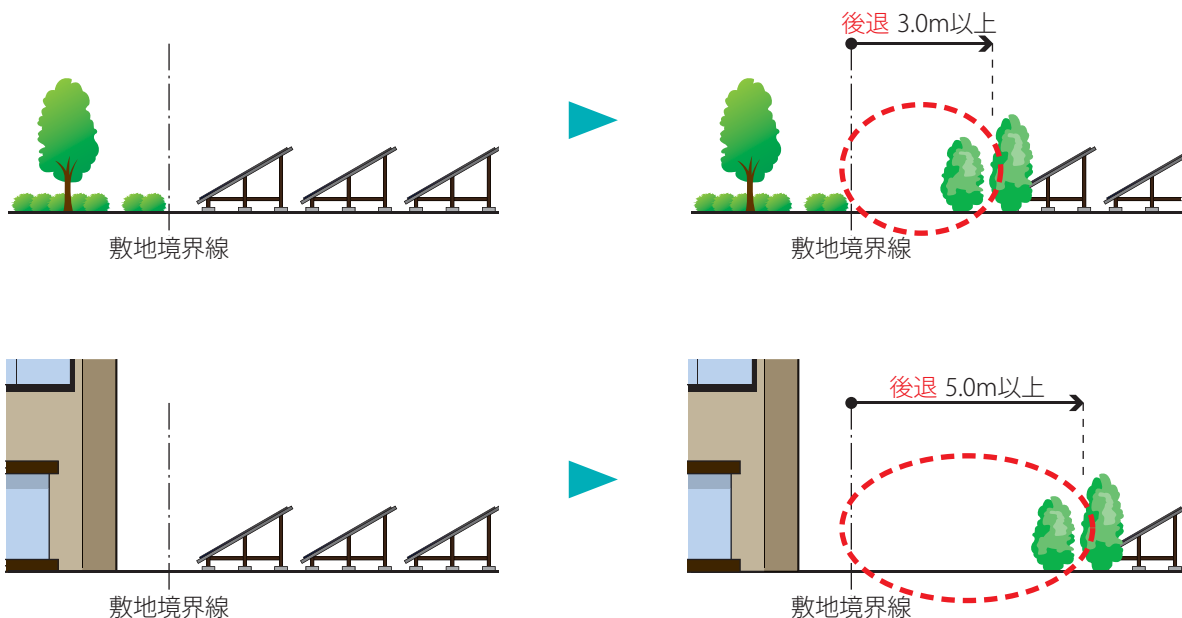
沿道ゾーン(沿岸型)の基準

基準

- 太陽光発電施設(柵塀等含む)は、敷地境界からできる限り後退し、圧迫感の軽減に配慮すること。

■具体的な配慮の例■

- 太陽光発電施設は、敷地境界からできる限り後退し、必要に応じ植栽などにより修景する。
なお、後退距離の目安は、隣地との境界から3.0m以上とする。ただし、隣接して建築物がある場合は、その土地の境界から5.0m以上とする。



- 柵塀等を設置する場合は、道路(農道、林道、自転車道等を含む)の沿道に直接面して設置せず、圧迫感回避のため、緩衝帯などによって一定の後退距離を確保する。
なお、後退距離の目安は、道路境界線から5.0m以上とする。

